

ご好評につき13回目! 『大阪』『東京』にて開催! ※大阪会場、東京会場の講義内容は同じとなります。ご都合がいい会場・日程でご参加ください。

コア技術と知財を起点にした研究開発テーマ企画方法

～ 研究開発の源流でコア技術・知財視点を導入する ～

【開催要領】 ※講師とご同業の方のご参加はお断りする場合がございます。※最少催行人数に満たない場合、開催中止とさせて頂く場合がございます。

日 時▶2017年7月13日(木) 13時-17時 日 時▶2017年7月27日(木) 13時-17時

会 場▶ハートンホテル南船場(大阪:心斎橋) 会 場▶企業研究会セミナールーム(東京:麹町)

【ご参加頂きたい方】

研究開発テーマ創出の実務担当者、研究企画部門、研究開発部門、
知的財産部門の新任～中堅スタッフ

講 師 高収益企業支援家・弁理士 中村大介氏(株式会社如水 代表取締役)

講師紹介
全員経営による技術企業の高収益化の専門家。事業を模倣されて利益率が低迷した経験、社員の離反を招いた経験から継続的な組織成長の仕組みを模索。継続的な組織成長の仕組みは、社員の自発・自律・自治を促す学習と実践(会議)である事に気づき、「全員経営会議」として体系化。現在は全員経営会議の提供や、技術企業の高収益化のコンサルティングを通じて、社員の自己成長を促しつつ組織成長を実現する企業を支援している。クライアント企業では、売上が短期間に2倍になったケース、知財出願ベースが3倍になったケース、有望研究開発テーマが多数立案されたケースがある。専門は技術企業の高収益化。北海道大学卒業・東京大学大学院修了日経テクノロジーのコラム「知財で築く真田丸」連載中

【申込書送付先】 FAX▶03-5215-0951 ※当会 HP からもお申し込み頂けます。 企業研究会Q 検索

■受講料: 1名(税込・資料代含) ※申込書をFAXでご送信いただく際は、FAX番号をお間違えないようご注意ください。

正会員 34,560円(本体価格 32,000円) 一般 37,800円(本体価格 35,000円)

希望会場に[✓]をご記入下さい。

	大阪開催 (7/13)	171427-1010		東京開催 (7/27)	171429-1010
ふりがな 会社名					
住 所					
TEL			FAX		
ふりがな ご氏名			所 属 役 職		
E-mail					

※申込書にご記入頂いた個人情報は、本研究会に関する確認・連絡および当会主催事業のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

■参加要領: 申込書はFAX、または下記担当者宛E-mailにてお送り下さい。当会ホームページからもお申し込み頂けます。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

※よくあるご質問(FAQ)は当会HPにてご確認いただけます。([TOP]→[公開セミナー]→[よくあるご質問])

※お申し込み後のキャンセルはお受け致しかねますので、ご都合が悪くなった場合、代理出席をお願いします。

■お申込・お問合わせ先: 企業研究会 公開セミナー事業グループ 担当/民秋・川守田 E-mail:tamiaki@bri.or.jp

TEL: 03-5215-3514 FAX: 03-5215-0951 〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7-2 麹町M-SQUARE 2F

・プログラム・

1. 技術企業の目標は高収益化

- (1) 高収益とはなにか
- (2) 高収益は理論的に説明できる
- (3) 高収益は研究開発部門が作り込む

2. 研究開発と知財の課題

- (1) 研究開発マネジメントの変遷
- (2) 知財の件数と収益は比例しない
- (3) テーマ評価方法の問題点 RとD
- (4) 開発部門の課題/研究部門の課題

3. テーマの分類

- (1) テーマとアイデアは異なる
- (2) アイデアの方程式を理解する
- (3) テーマには大きく4つあることを理解する

- 方向性1) コア技術ベースの新規顧客探索
方向性2) 顧客課題ベースの新規技術獲得
方向性3) 事業延命のための開発テーマ創出
方向性4) 事業延命のための研究テーマ創出

4. アイデアをテーマにする

- (1) 高収益をもたらす研究開発の方向性、産業特性とRとDの違いを理解する
- (2) コア技術ベースのフォーキャストの方法を理解する
- (3) バックキャスト的な考え方の良い点と欠点を理解する
- (4) フォーキャスト技術のバックキャストでの理由付け
- (5) アイデアをテーマにする方法を理解する
- (6) ロードマップの書き方を理解する
- (7) 手法ではなく本質論であることを理解する

5. 他社の事例

- 事例1) 独自性の高い技術のストック法
事例2) テクノロジープラットフォーム整理法
事例3) 10年先の研究テーマの創出方法

6. 知財視点を研究開発の源流に入れる

- (1) 裁判で使える権利を書くのはそれほど甘くない
- (2) 上位概念化の方法: 隣のエンジニアアプローチ
- (3) 研究企画段階でクレームを企画する
- (4) 明細書ではなくクレームにすべてを込める
- (5) 特許の取得範囲はどこまでか?
- (6) 必要な知財をマップから洗い出す方法を理解する
- (7) 質の向上と網の形成を両立する

7. まとめ

■開催にあたって■

【概要】このセミナーはテーマ創出者/テーマ創出の促進者向けのテーマ創出方法を解説する講座です。研究開発者向けには「どうすればテーマ創出できるか?」にストレートにお答えします。知財・研究企画部門ご担当者には、「どうすればコア技術・知財起点のテーマ創出をしてもらえる仕掛けができるか?」にストレートにお答えします。

【特徴】このセミナーの特徴は、排他性の高い知財の創出を視野に入れて受講者の立ち位置に合ったテーマ考案方法を学ぶことです。研究と開発、化学などの川上とセットメーカーなどの川下メーカーでは求められるテーマの性質が全く違います。この違いを理解せずに「テーマ創出法」を学ぶのはキケンです。求められるテーマに応じた情報収集活動をデザインする視点で解説します。

【効果】受講者の立ち位置に沿って、体系立ててテーマ創出法が学べます。テーマ創出実務や研究企画支援業務で効果を出す上で実践的のヒントが満載です。

【オススの受講者】研究開発者などのテーマ創出の実務に携わる方、研究企画等のテーマ創出部門に着任された方

※最少催行人数に満たない場合、開催中止となる場合がございます。

裏面もご覧下さい! 一枚のパンフレットで2種類のセミナーをご案内しております。